

自分の意志で考え判断し表現できる生徒 自他を尊重し変化を前向きに捉える生徒 健康で安全な生活の中で挑戦できる生徒



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第6号
R8年 9月 9日発行
文責・編集・発行：教頭

生まれ来る子供たちのために

学校祭終了後、校長と「私たちの時代は、こんな場はなかったなあ。今の子どもたちは、自分を表現する場があっていいね」なんて話を職員室でしていました。子どもたちは、学校や家庭、地域の中で、いろいろなことを考えながら過ごし、様々な形で表現しています。そういう場を、そういう権利を私たち大人が、担保していく必要があります。

私が中学生だった頃から、３０年以上経ちます。では、さらに３０年が経った時、同じように（よりよい形で）子どもたちが表現する場や権利は担保されているのでしょうか。その時のために、今、何をするのがよいのか。学校祭の振替休業日、温泉につかりながらそんなことを思いました。



生徒会役員選挙の季節ですね

今年度は、生徒会長や保体常任委員長に複数の候補者が立候補するなど、意義深い選挙となりました。

当選した側（役職に就く側）の責任もありますが、投票した側の責任もあります。リーダーとフォロワーが協力し合いながら、活動してほしいですね。



少年の主張宗谷地区大会

7月24日に行われた標記大会に、1年生本家さんが出場し、見事、優秀賞に選ばれました！



北海道学力コンクール

夏休み明けには、北海道学力コンクールに挑戦しました。高校進学だけが進路ではありませんが、いわゆる「志望校」を設定して学習に取り組むことで、主体的に学習に取り組む姿勢を育むことを狙いとしています。

浜中HPはこちら



「主役は自分」を支えるもの

校長 明石 貴宣

先日の学校祭には多くの保護者の皆様、地域の皆様にお越しいただき、本当にありがとうございました。生徒のパフォーマンスに大きな拍手をいただき、励みとなりました。

学校祭については、他の行事との兼ね合いや二期制（前期・後期）による日程調整の関係から、9月初旬での実施としました。夏休み明けから20日足らずでの実施となりましたが、生徒は限られた時間の中で、学年発表や有志発表、生徒会本部による開閉会式、さらに全校合唱においても自分たちで考え試行錯誤しながら取り組んできました。

学校行事は生徒の成長につながる教育効果の高い取組ですが、行事だけに時間をいくらでも使っているというものではありません。そもそも時間は有限ですし、教科の学習内容や標準的な時間数も決まっています。「劇の練習をもっとやりたいから今週は授業を全部やめよう！」「合唱が大事だから数学も英語もやなくていい！」なんてわけにはいきません。もちろん時間をかければそれだけ完成度も高くなるかもしれませんが、重要です。行事の取組で得た成長や仲間との絆、保護者や地域の方々の笑顔や感動や拍手による充実感です。浜頓別の皆さんは本当に生徒を温かく見守ってくださり、パフォーマンスを楽しみ、惜しみない拍手や励ましの言葉をかけてくださる方々ばかりです。この環境があるからこそ、本校の学校祭は成り立っています。

今年の学校祭のテーマは「1に学祭、2に学祭、3に学祭～主役は自分～」でした。文字どおり、一人一人が主役として劇やダンス、バンド演奏、合唱などのパフォーマンスを繰り広げました。これだけ大勢の人の前で堂々と自分を表現できる生徒たちを見て、素直に感動するとともに、「主役は自分」を支えてくれている環境に心から感謝したいと思いました。もちろんこの環境は生徒たち自身が作り出したものでもあり、学年を越えた仲のよさや互いを尊重する気持ちの表れでもあります。本校の先生方の日々の生徒との関わりのおかげでもあります。そして、保護者や地域の皆様の温かさのおかげでもあります。

一人一人の生徒は誰もが自分の人生において「主役」です。今回の学校祭で「主役」として得た自信や充実感、ステージに立つまでの試行錯誤、そして支えてくれている環境への感謝の気持ちは、今後の人生を「主役」として歩いていく上でも大切なことです。全校合唱のMrs.Green Apple「僕のこと」を聴きながら、そんなことを感じた学校祭でした。